

# 審議会等議事概要

平成30年度 滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議（第1回） 議事概要

日 時	平成30年7月30日（月曜日）午後6時01分～午後7時05分
開催場所	滝川市役所5階 庁議室
出席者	出席：春田委員長、尾崎委員、西井委員、富田委員、宮本委員、川田委員、櫻井委員、木村委員、堀田委員 欠席：中嶋委員、内潟委員、玉手委員、中島委員、本元委員、居林委員 オブザーバー：中川校長、西村副校長、菅原校長 北海道教育委員会：櫻井課長（北海道教育庁学校教育局高校教育課配置・制度担当） 高橋主幹（北海道教育庁学校教育局高校教育課高校教育企画グループ） 山内課長（北海道教育庁空知教育局企画総務課） 事務局等：山崎教育長、田中教育部長、栗井指導参事、諏佐教育総務課長、寺嶋教育総務課長補佐、後呂教育総務課係長、法村滝川西高等学校事務局事務長、阿部事務補
	<p>本日はご多用な中、夜分お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>（委員及び事務局自己紹介、道教委紹介）</p> <p><b>1. 開会</b></p> <p>・事務局</p> <p>それでは、ただいまから、「平成30年度第1回滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議」を開会いたします。</p> <p><b>2. 教育長挨拶</b></p> <p>・山崎教育長</p> <p>本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。第1回滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議ということで、私から一言挨拶を申し上げます。当会議までの経過について触れさせていただきますが、6月5日、道教委が公表した公立学校配置計画案で、平成33年に滝川高等学校の間口減が盛り込まれて発表されました。案として発表されましたが、大変衝撃を受けました。そして、このことを受けまして6月14日、市長と私が共に道教委を訪問いたしまして、佐藤教育長に対して市民の皆さんに納得のいく形での説明をしていただくようお願いをして参りました。そして、7月11日に文化センターにて地域別検討協議会が開かれました。報道等でご覧になった方は多いかと思いますが、市内中学校長及びPTA、経済団体など様々な方から意見が出ました。意見としては、なぜ滝川高等学校なのか、数合わせだけで削減する印象を受け</p>

てしまう、生徒の人数を考えていないのではないかとといった様々な間口減に対する疑問を呈する意見が出されました。また、滝川市議会としても8月6日に水口議長と山口副議長、関藤総務文教常任委員会委員長、安樂副委員長が道教委の方に伺いまして、意見書を提出する予定となっております。本日は、市民会議ということで率直な意見を出していただければと思います。また道教委の皆さんにも可能な限り掘り下げたご回答をいただければと思います。9月には案が決定するというので、今日の結果を反映させていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### 3. 委員長・副委員長の選出について

#### ・事務局

委員長・副委員長については、滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議設置要綱第5条の規定により、委員の互選により選出することにしたいと思っております。選出方法について、委員の皆様からご意見はございますか。

(「事務局一任」の声あり)

ただいま、事務局一任との発言がありましたが、異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、会長には、國學院大學北海道短期大学部からご推薦いただいている春田委員、副委員長には、本日あいにくご欠席されておりますが、滝川商工会議所からご推薦いただいている居林委員にお願いしたいと思います。ご異議がないようでしたら、全体の拍手をもって決定とさせていただきます。

(拍手)

それでは、決定させていただきましたので、春田委員長、前にお越しいただき、ご挨拶をお願いいたします。

#### ・春田委員長

改めましてこんばんは、只今ご指名をいただきました國學院大學北海道短期大学部の春田と申します。委員長の任をこれから務めさせていただきますが、大変大きな問題ですので短時間とはいかないかと思われませんが、皆さんの様々なご質問、ご意見を道教委の方々にお伝えして、是非この後の決定案の中に反映させていただきたいと思っております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

4. 議題

(1) 「公立高等学校配置計画」 (案) について

・春田委員長

それでは、早速会議に入りたいと思います。

会議次第の4、議題(1)「公立高等学校配置計画」(案)について、道教委より説明願います。

・道教委より資料1～6に基づき説明。

・春田委員長

説明が終わりました。ご質問・ご意見はございませんか。

・委員

人口減に対し間口を減らすというのは仕方がない話であることは理解しております。しかし、滝川市内に他の町から来られている方がたくさんいます。滝川高校だけではなく、滝川工業高校、滝川西高校に来ている子ども、保護者の「なぜ滝川に来ているのか」という意向等の理由が資料からではわかりません。もう一度考え直していただきたいというのが正直な意見です。

・委員

現在中学3年生の進路の希望状況や最近の状況としては、滝川高校をはじめ滝川市内の高校への進学を希望する生徒がより一層増えています。滝川高校は定員も割っておらず、ここ5年間では学区外の高校へ進学する数も減ってきているのではないかと思います。これも高校の先生方の努力、学校の頑張りだと考えております。滝川高校については、ぜひ再考をお願いしたいと思います。

・委員

中学校から高校へ子どもは高い志を持って進みますが、看護などの専門的な進路に進む場合を除き、将来何になるかを見据えてというのは難しく、高校に入って初めて進路について考える生徒が多いと思います。社会で通用する学力を身に付ける場が高校だと思っておりますので、滝川高校は社会のニーズに応える意味で、滝川市内では学力に長けており、学力をつけたいということで滝川高校を目指す子ども達があります。その中での間口減は不安に感じます。間口減で学力が上がるなら構わないが、減らすのであれば学力をつけるような、新たな時代の要請に応えるような学校にしていきたいと思っております。

・委員

資料を見ると他の町から滝川に入って来る子どもが非常に多いと思います。これは滝川市内の高校が素晴らしいカリキュラムを作成したり、魅力ある高校づくりをしているからだと思っております。なぜ欠員も出ていないのに間口が減ってしまうのかよくわかりません。周りの学校を考慮して滝川高校を1減とするというならそれは違うと思っております。

・委員

前回の西高の間口減の時と同じですが、定員を割っていないのに間口が減るとというのが理解できません。周辺の町の子どもの半数が滝川の高校を目指してやって来るというのは、滝川市内の高校の間口を減らしてはいけないということの証明になるのではないのでしょうか。深川の高校が学校のPRをしているという新聞記事がありましたが、各校が学校の魅力づくり、魅力を発信していくような活動に力を入れて特色を作っていることに感心しております。滝川市では少人数学級を推進していますが、高校においても1学級の定員を減らして教育を進めていくことが必要な時代だと感じています。日本は資源のない国ですが、資源となる人材育成を進めることが日本の未来を作っていくという視点から、40人という枠にとらわれずに進めていってほしいです。滝川高校の間口減については再考いただき、ぜひ存続させていただきたいと思います。

・委員

それぞれの地域で地元の高校へ進学するという考えはあると思います。生徒数が減るからどこかの間口を減らすという印象を受けますが、北学区にもう少し大きな規模の学校が必要なのではないのでしょうか。高校を全部残す考えで次から次へと間口を減らしていくと、4、5学級が北学区の最大規模の学校となってしまいます。小さい学校だからこそ特色を出し、魅力を出せるという部分や、大きい学校だからこそ様々な大きな活動ができるという部分があると思います。生徒にとっての選択肢として、北学区に大規模の学校を残す必要があるという考え方もできるのではないのでしょうか。

・櫻井課長

平成20年度に1学級減をしましたが、その後中卒者の減少が続く中でも現状維持を行ってきました。平成33年度の学区内の中卒者が1,000人台を切り、851人にまで減ると考えられています。どこの学校も手を付けずに現状維持とした場合、それが全部欠員になってしまいます。滝川市以外の学校はいずれも3学級以下ということで一気に急降下が進んだ状態で、生徒の教育活動に影響を与える懸念もあり、将来的には学校の存続問題にも発展する恐れがあります。砂川高校が今の3学級から2学級になると教員定数の関係から単位制の継続が非常に難しくなり、生徒の教育活動に影響が生じてしまいます。北海道としては、学区内の高校の活性化、他とのバランスということにも十分配慮していかなければいけないと考えておりますので、滝川市内での調整に何とかご理解をいただきたいと思います。

学級定員の引下げについては、全道19学区で行っている地域別検討協議会のほぼすべての会場で同様の意見をいただいております。しかし、学級定員を引下げると教職員定数を北海道で持たなければならず、今の財政状況では非常に厳しいです。国に対して財源措置、教職員定数の拡充を毎年度強く要望しており、今後も続けていきたいと思っています。

	<p>・春田委員長  その他にご意見はございませんか。(なし)  それでは、他にご意見がございませんようですので、以上をもちまして、議題(1)「公立高等学校配置計画」(案)については、終了とさせていただきます。</p> <p>5. その他</p> <p>・春田委員長  5の「その他」に入ります。委員の皆様から何かありますか。(なし)  なければ事務局からありますか。(なし)</p> <p>・春田委員長  それでは、その他にご意見がございませんようですので、5の「その他」については、終了とさせていただきます。  ここで、進行を事務局にお戻しします。</p> <p>6. 閉会</p> <p>・事務局  改めまして、本日は、本市民会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。次回の開催につきましては未定ですが、情勢を見極めて、ご意見を頂戴する必要があった際には、再度お集まりいただきたいと考えております。  今後の予定としましては、8月6日に、市議会が道教委と知事に対して意見書を提出する予定となっております。  また、9月上旬には計画案が成案となる見込みではありますが、計画が公表された際には、委員の皆様にご書面でお知らせしたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。  最後になりますが、本日は、お忙しい中、活発なご意見をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。以上をもちまして、滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議を終了いたします。本日は、誠にありがとうございました。</p>
<p>会議資料</p>	<p>○資料1 公立高等学校配置計画案(平成31年度～33年度)  ○資料2 高等学校配置計画検討資料  ○資料3 中学校卒業生数  ○資料4 空知北学区 進学者の状況(全日制課程)  ○資料5 全日制課程  ○資料6 現行学区に改正(H17)後の空知北学区における中卒者数・定員等の推移</p>